

活動報告

文教厚生委員会

視察日

平成25年10月16日～18日

視察先

広島県安芸高田市、府中市、
呉市、広島平和記念資料館

「もやい」お互いさまの精神で
～市民総ヘルパー構想

◎安芸高田市では、厚生労働省の「安心生活創造事業」のモデル事業として、「市民総ヘルパー構想」を推進されています。これは、地域で見守りや支援を必要とする方々を、地域の登録訪問員が訪問し、支援を行うものです。

支援のメニューは話し相手や買い物宅配支援など無料のものと、ごみの分別や病院への付添など有料のがあります。登録訪問員は、一定の講習を受けて生活

介護サポーターとなつていただいた地域の方で、1回のサポートで300円をいただき、「もやい」というお互いさまの精神で取り組まれています。



小中一貫教育に取組む
府中学校教育委員会
文教厚生委員

府中市小中一貫教育プラン プラス5プログラム

◎府中市では、小中学校の統廃合にあわせ、全市で小中一貫教育に取り組まれています。

小中一貫教育導入の理由は、①中学校で不登校生が増加する傾向にあり、小中学校の接続の充実と、②学力調査の結果、小中学校で大きな隔たりがあり、義務教育9年間の定着をそれぞれ図る必要があると考えたことからです。

平成16年度から試行し、20年度から本格実施、22年度からは「府中市中小一貫教育推進プランプラス5プログラム」として子どもたちの成長にプラスとなる取り組みを進められました。

医療費適正化に向けて

◎呉市は、全国で初めてジェネ

リック医薬品に係る「差額通知」を行い、医療費削減効果を上げた自治体です。レセプトを電子データベース化して分析し、医療費の高い約3千人に通知します。ジェネリック医薬品への切り替え率は80%に及び、24年度は1億3千万円の薬剤費削減効果がありました。さらに、糖尿病性腎症重症化予防事業等にも取り組まれています。レセプトデータから人工透析予備軍を抽出し、重症化予防プログラムに参加をお願いするもので、22年度からこれまで192人の参加者の中で人工透析になった方はなく、年間約1千200万円から1千800万円の医療費削減効果があると推測されるとのことでした。

平和学習と被爆体験講和

◎広島平和記念資料館視察の後、原田浩氏から被爆体験を聞きました。原田氏は6歳の時に広島駅で原爆を体験、淡々と語られる先生の話の中に、原爆の恐ろしさを若い世代に伝えていかねばならない非常に重い使命がかいま見られました。

産業建設委員会

視察日

平成25年10月28日～30日

視察先

岐阜県庁、山県市、美濃市、
滋賀県草津市



山県市の市営子どもげんきハウスを視察する産業建設委員

木育の取り組み

◎岐阜県は森林が82%を占め、全国で2番目に高い森林率を誇る県です。県では森林・環境税を利用して「森や木とふれあい、学び、ともに生きる」をテーマに、岐阜木育30年ビジョンを作り、県産材を活用したおもちゃを開発し、保育園・幼稚園などへの貸し出しが行